

令和5年度 江戸川区立大杉小学校 学校関係者評価 最終評価

学校教育目標	けんこうな子 すすんでとりくむ子 おもいやりのある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者が安心して子どもを預けられる学校 学ぶことを楽しいと感じる児童 教育公務員として使命と責任を自覚し、常に力量を高める努力を行う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・いじめ、不登校が0であったこと。また全教職員が「安全・安心な学校」の共通理解したことで危機管理意識が向上したこと。 <課題> ・児童の学力の向上に向けた教員の授業力、授業改善、職層に応じた職務行動が日常化及び組織の強化、それにに向けたOJT研修の実施及び充実。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・年4回東京ベーンシグドリル診断テストを実施し、児童の学力を確認し、既習内容の定着を図る。 ・年間15分×35回の朝学習を活用し、算数は九九の定着、国語は漢字や書く力を育成する。 ・年間35回以上のキミスタ(放課後補習)の実施、ミライノートを活用し家庭学習の充実を図り、学力の底上げを目指す。	・2年生以上が毎学期に行う東京ベーンシグドリルの診断テストにおいて、各学級とも80%以上習得。	C	B	○区学力PTの支援を受け、5年生の学力向上に向けて具体的に取組んでいる。、放課後学習教室等についても個人カルテを基に苦手な内容を分析・対応している。 ○本校の学力が低いこと、児童に学力を付けることが重要であることが教職員全体が意識し始めた。 ○東京ベーンシグドリル診断テストの分析をした結果、各学級の正答率が2年70.8%(54.8%)、3年48.3%(44.6%)、4年71.1%(63.1%)、5年69.0%(63.2%)、6年43.8%(37.3%)で取組の成果が出始めている。	C	○ここ数年、学校全体の学力低下が見られる。この原因は一概に学校だけの責任ではない。家庭の教育力も必要不可欠。現状を公表し、学校と家庭が協力していくことが大切。 ○先生方は多忙な中にもかかわらず、よく頑張っている。学力も体力も低い状況なら、普通、学校が荒れたり、大変だったりするが、大杉小学校の子どもたちはとてもよい。 ●学力向上のための具体的取組が必要である。	・教師の授業改善を始め、家庭の協力を得ながら、基礎学力向上策を検討し、次年度実施し、今年度よりも学力向上を目指す。 ・教師、児童一人一人が現状を把握し、意識改革をすることから始めていく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・朝読書を徹底するとともに、各学年で読む量の目標を決め、読書の機会を増やす。 ・教員や保護者ボランティア、外部講師による読み聞かせを定期的に行い、読書科の推進を図る。 ・中央図書館との連携を図り、団体貸し出しを積極的に活用し、さまざまな本の出会いを創出するとともに、調べるコンクールをはじめとする探究の取組を推進する。	・年間35回以上の朝読書 ・毎月1回以上の読み聞かせ ・中央図書館の団体貸し出しを全クラスが年1回以上実施	B	B	○朝読書は確実に実施している。保護者及び教職員による読み聞かせや外部から中井貴恵さんをお招きし、大人と子どもの読み聞かせも実施した。 ●保護者ボランティアによる読み聞かせがなく、担当が実施している状況がある。学校応援団による読み聞かせを再開したい。	B	・「読書科」の意義を教員が今一度しっかりと理解して各教科との関連を図っていく。 ・区の読書科の研修を受けた教員の伝達講習研修会を確実に実施する。	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・運動が苦手な児童も参加しやすくなるスポーツを導入したり、するなど体育の授業改善を図る。 ・体力テストでは、本校の課題である持久力を高めるために、なわ跳びやマラソンなどに取組む。	・スポーツテストにおいて、各学年とも前年度よりもポイントを上げる。 ・本校の授業では30分以上の運動の時間を確保する。	C	C	○わくわくタイムにおいて、大縄、短縄、マラソンと体力向上に向け、年間通じて取り組むことができた。 ○実技研修会を年3回実施し、教員の指導力向上を図った。これにより体育科の授業も一番重要である「運動量の確保」を意識し、取り組めるようになった。 ●区全体で比較すると平均以下であり、投力・持久力に課題がある。	C	○年間通じて様々な体力向上への取り組みをしていることは評価できる。 ○実技研修会を実施し、先生方の指導力の向上を図るなど実際に取り組んでいることはとてもよい。 ●日常的に継続していくこと、習慣付けることが課題。 ●体力テストの結果を分析し、課題を克服していく。	・昨年度の体力テストの結果を全教員が把握し、課題を明確にするとともに、運動量を30分以上確保する授業改善の徹底を図る。 ・体育の授業の中に、帯活動で基礎体力向上の運動を取り入れる。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンレージブルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・すべての児童にとって「分かる！できる！」個に応じたユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを全教員が実施する。 ・「誰も排除しないまぜこぜの学校」の実現に向け、授業や校長講話でジェンダーに関するところを取り上げ、共通理解するとともに、児童、保護者にも啓発していく。	・配慮を要する児童への関わり方等、SCや特別支援専門員などにより研修を年間3回以上実施する。 ・学期に1回以上は「便り等」を発行し、情報発信に努める。	B	B	○生活指導夕会、SC報告等、毎週報告、共有している。また特別支援に関する研修も2回実施し、特別支援に関する資質向上を図った。 ○「世界服性まひの日の日」に全校児童、全教職員、保護者にもその意義を伝え、啓発運動につなげた。 ●情報発信の点では、少し足りないのが、学校だよりやHPを活用し、改善を図る。	B	○校長先生の「誰も排除しない、まぜこぜの学校」を実現すべく、このような取り組みをしていることがわかった。特別支援は幅広く、わかりにくいことがあるが、学校がわかりやすく具体的に実践していることがわかった。	・通常級及び特別支援級の区別をしっかりと理解し、支援を要する児童の見極めを教師ができるようにし、保護者理解のもと、支援体制をスムーズに確立できるようにする。 ・本校にある「こぼれの教室」の理解と啓発
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyspaer-QUの活用	・いじめ防止対策では、年3回以上いじめ防止授業「学業」に1回のいじめアンケート、また、いじめ撲滅キャンペーン「大杉ピンクシャツデー」に取組み、いじめを出さない学校づくりに努める。 ・不登校防止対策では、連絡がない休みが2日連続で続いたら家庭訪問等を実施し、保護者の協力を得ながら未然防止、早期支援する。 ・スクールカウンセラー、学校心理士など学校相談体制の見える化、hyspaer-QUの活用等を通して、児童だけでなく保護者の悩みにも寄り添いながら支援する。	・いじめ防止授業、いじめアンケートの確実な実施 ・軽微ないじめの認知、早期対応、3か月間の産前観察及び解消をし、年度末いじめ件数を0にする。 ・児童に不登校傾向が見られたときには関係機関等につなぐなど、関りが途切れぬよう支援をする。	B	B	○軽微ないじめも積極的に認知し、早期支援に取り組んだ。また研修会を実施し、未然防止の徹底をした。 ○いじめ発生件数11件、すべて解決した。 ○不登校児童いないが、その傾向にある児童の支援を保護者及び関係機関と連携して支援している。 ●教室登校はどううなげっていくが課題。	A	○いじめの早期解決を図っていること、重大化していないことが何よりも先生方の頑張りの結果。 ○不登校も0であること、このご時世に不登校がないことは評価できる。	・いじめを出さない未然防止策の徹底、いじめを把握するためのいじめアンケートの随時実施と早期対応、早期解決を組織対応で取り組む。 ・不登校を出さない「学級経営」をするとともに、休みがあれば保護者と早期に連携を図り、長期化にならないようにする。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・保護者、地域の方がいつでも児童の姿を見られる機会の「いつでも授業参観」制度、毎月1回の「校長相談日」を設定し、保護者の悩み等速やかに対応を図りながら、「学校の見える化」を推進する。 ・学校ホームページを毎日更新し、学校や児童の様子を積極的に発信し、保護者の安心感を高めている。	・学校ホームページの年間200回以上の更新 ・学校評価アンケートの情報発信の項目において、満足度を90%にする。	B	B	○夏季休業中にHPを改訂した。また、毎日更新しており、年間200回は越えるペース。 ○HPを見れば学校の様子がわかるよう、学校日記は様々な学年の様子をバランスよく伝えている。	B	○日々学校の様子、児童の様子を発信していくことはとてもよいこと。	・毎日更新し、児童の様子や学校行事の予定等を発信していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年4回の学校公開の実施 ・年9回の学校評議員会の開催 ・各学校行事アンケートの実施と改善案の作成	・学校公開や各行事のあとのアンケートの実施と分析し、集計結果を毎回報告する。 ・学校評価アンケートにおいて、各項目の満足度を90%にする。	B	C	○毎回アンケートを実施し、教職員間で結果を共有している。	B	○学校評議員会、各種行事等で学校のよさや改善が必要となることを伝え、学校もきちんと対応してくれている。今後も協力体制を確固たるものにしてきたい。	・評議員からは高い評価をいただいているが、さらに児童のためにできることは改善していく。
	伝統の継承と創造	・6年全員ブラスバンドや大杉ソーランの充実と発展 ・大杉芸術祭の開催 ・中央地域まつり、大杉まつり、85周年記念式典	・児童による評価、学校関係者評価の指標において好意的反応が80%以上	C	C	○行事がある度にアンケートを実施し、次年度に向けて改善案をすぐに検討している。 ●好意的な意見がある反面、批判的な意見がある。その意見をしっかりと改善していかなければならない。	A	○毎年、すべての行事がとてよく実施され、とてもよい。この大杉小の伝統を継続してほしい。	・継続しながらさらさら発展させていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・月1回の定時退勤日(原則17時)の設定 ・超過勤務時間の視覚化	・毎月の超過勤務時間を45時間以内にする。 ・定時退勤日は90%の実施を目指す。	C	C	○教職員に周知徹底し、意識させることができた。定時退勤日は90%以上退勤できている。 ●まだ残業時間が多い、教員が若干名いる。	B	○働き方改革は学校だけでなく、どこでも推進していることである。引き続き推進を。 ●残業時間が多いのは業務量が多いのではない	・よい教育は先生方の健康からである。メリハリを付けて業務にあたっていく。